



TA業務の実際

(ワークショップ演習)

東京工業大学・教育革新センター

ワークショップの流れ(30分)

1. グループの確認 (2分)
(5名ほどで1グループ, リーダーと書記決定)
2. 課題の説明 (2分)
 - (1) 学生との関係
 - (2) 先生との役割分担
 - (3) 実験・実習・演習での対応
3. 話し合い (12分)
4. 全体で発表 (12分)
5. 記録のまとめ(書記を中心に) (2分)

話し合いの進め方

1. グループでリーダーと書記を決める
2. リーダー中心に課題を話し合う
3. 書記が記録
4. 全体の前で発表
自分の担当以外の課題も記録
5. ワークシートを提出
 - (1) 解決策(具体的にどうするか)
 - (2) 解決策を応用できる事例として
どんなものがあるか

1. 学生との関係

【課題2】 TAの田中さんは学生が質問しやすい雰囲気を作るために学生たちに声をかけて良好な関係作りに励んだが、一部の学生から「田中ちゃん」と呼ばれたり「ため口」で話されたりするほどの友達関係になった。このままでよいのだろうか。

- ・良好な人間関係は大切。しかし「**一定の距離感**」も必要、**学生とTAは同じ立場の友人ではない**
- ・「**公的**」なつきあいにふさわしい「**言葉遣い**」と「**態度**」を示すことで学生に気づかせよう
- ・過度に親しげに接する学生には、フレンドリーであっても**毅然とした態度**で接しよう

応用例：**ゼミや個別指導など**

1. 学生との関係

【課題3】 外国人留学生の名前をどのように発音していいかわからないため、その学生への声かけが「ちょっと君」「その人」のような呼び方になってしまう。学生本人も誰のことを呼んでいるのかわからないようで、戸惑っているようだ。どうしたらいいだろうか。

- ・学生の名前を覚えて、授業で名前を呼ぶことは、学生一人一人を尊重し、大切にしているという気持ちが伝わる
- ・難しい名前は、学生に直接、尋ねる。
「発音が難しいのですが、なんと呼んだらいいですか」
「How can I call you?」

応用例：ゼミや個別指導など

2.先生との役割分担

【課題1】 慎重すぎて作業が大幅に遅れている学生がいる。このままでは他の学生が帰った後に一組だけ残ってしまいそうである。TAの田中さんは何をしたらいいだろうか。

- **教員の方針**を確認しておく
時間超過しても最後までやらせる場合もある
- 時間がかかる**原因**は何か
 - 操作が未熟であれば手本を示す。
 - 必要以上に丁寧にやって時間がかかる、大事なポイントを教えて能率UP

応用例: 他よりも進捗が遅い学生に対する指導

2.先生との役割分担

【課題2】TAの田中さんは授業の最終グループプロジェクトを担当している。あるグループの学生2名が「お互いに意見が合わずプロジェクトがほとんど進まないので困っている」と相談に来た。田中さんはどのように対応したらいいだろうか。

- ・ 自分だけで判断せず先生や同僚TAの協力を依頼
- ・ すぐに解決策を見つけようとしない
時間をかけて丁寧に対応
- ・ 片方の学生だけでなく、両方の話をしっかり聞く
「一人ずつ話を聞くから困っていることを話して」

応用例:プロジェクトやPBLなどでの学生間のトラブル,
意見の相違

2.先生との役割分担

【課題3】 中間テストの前に、TAの田中さんのところに数名の学生が「宿題の解説がよくわからなかった」「授業についていけないのももう少し教えてほしい」と言ってきた。学生は本当に困っているようだ。田中さんはどうすべきだろうか。

- ・【公平性の観点】特定の学生の要望でTAが独断で個別指導を行うことは望ましくない
- ・【報告・連絡・相談】理解できずに困っている学生がいることを担当教員と同僚TAに報告する

「質問をしてわからないところに気づかせる」

「類似課題を思い出させる」

応用例：他よりも進捗が遅い学生に対する指導

3. 実験・実習・演習への対応

【課題1】 実験の待ち時間が長いため、学生がワイヤレス・イヤホン装着している。TAの田中さんが注意したところ「明日のTOEICの試験のためにリスニングの勉強をしている」と言われた。勉強だから許すべきだろうか。

- ・ **誤った行動** (危険が察知できなかったり、**注意力低下**) であることを指導
- ・ **注意の仕方**: **言葉は丁寧**に、しかし、**断固とした態度**
- ・ **一貫した態度**で、どの学生に対しても、いつでも**注意すべきことはきちんと注意**しよう

応用例: **ゼミや個別指導など基本的な実験技術、態度の間違い、授業、実験態度の悪さ(飲食・内職)**

3. 実験・実習・演習への対応

【課題2】 実験室を巡回していたTAの田中さんはガチャンという音に振り向いた。実験台にガラス器具が乱雑に並び、端に置いたメスシリンダーが腕に引っかかって床に落ち、割れてしまった。田中さんはどうしたらいいだろうか。

- ・まずは状況を判断する。教員がいる場合は、連絡。
- ・学生本人は動転していることが多いので心配させない
- ・怪我していない場合、周りの学生に手伝ってもらって破損したガラスを片付ける、二次災害に注意
- ・怪我をしている場合は、同室のTAや学生の助けを得て、連絡と運搬を行う。残った学生の指導も

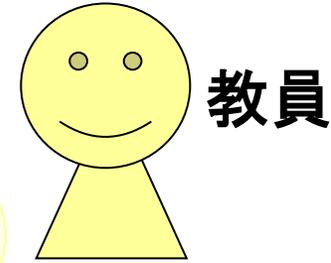
応用例：機器、器具の破損、学生の怪我、学生が気分が悪くなったとき

3. 実験・実習・演習への対応

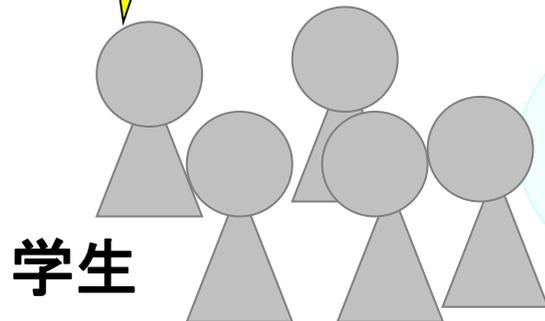
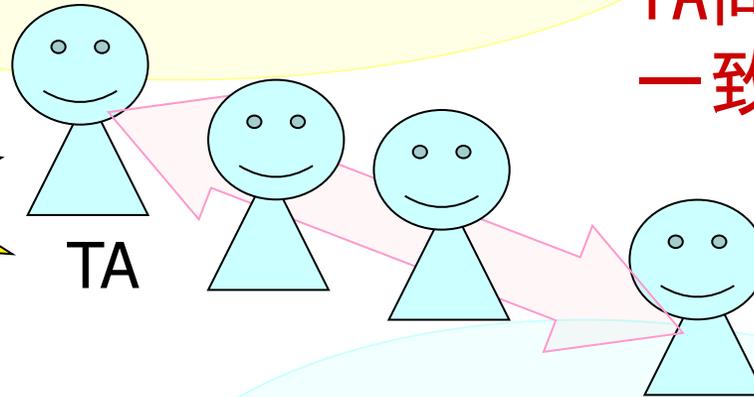
- ・緊急時どこに連絡するか，けが人(病人)をどこへ，だれの付き添いで運搬するかを決めておく
- ・建物からの避難方法も確認しておく。
- ・予め確認：シャワーや洗眼器の使用法，救急薬品の位置
- ・火災が発生：5つの基本行動
 - ①大声で「火事だ」と叫ぶ
 - ②119番通報(火事です・現場住所・火事の状況)
 - ③守衛所(内線3119)への連絡
 - ④身の安全を確保して初期消火
 - ⑤避難・誘導

4.まとめ:TAの役割

- ・ 実験・演習はTAと教員の共同作業
- ・ 事前に十分に打ち合わせを
- ・ 先生の指示はしっかり守る
- ・ 先生に敬意を持って



TA同士もコミュニケーションとり、
一致した言動・方針で



- ・ 良好な関係作り
- ・ 学生の様子に気配り
- ・ 距離の取り方に注意, 言葉遣い」

TA業務は自らの専門性を「大学教育の現場」で活かす重要な機会です。
東工大をさらによい大学にするために一緒にがんばりましょう。

